

2023 年度 学校法人 三幸学園 千葉医療秘書&IT 専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 三浦 明子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1) 退学率低減

2023年度退学率は全体で7%。2年生課程の学科の1年次に退学者数が多い傾向。退学理由は様々だが進路変更や目標喪失が理由としては多くあがっているため、医療業界や IT 業界の魅力を伝える必要がある。

(2) 資格取得率向上

検定ウィークの実施等の検定対策を講じることにより資格取得率が昨年度に比べ向上した。一方で下がってしまった資格もあるため、資格・検定対策の方向性や勉強時間の確保などの対策を引き続き実施していき、更なる資格取得率の向上を目指す。

(3) 就職の質向上

生徒自身が就職したいと希望する就職先に就くだけでなく、就職先で活躍できるよう早期から就職に向けた対策(就職決起会、模擬面接など)を実施。その結果、多くの生徒が希望した就職先への就職が決まった。

(4) 卒業生との関わり強化

2023年度は、卒業生との関りが少なく、業界理解や卒業生の現状を把握できていないため、来年度に関しては医療機関・IT 業界への訪問数を増やし、卒業生との関りを増やしていく。

(5) 現場との関係性構築

実習巡回で医療機関に訪れる機会はあるが、医療業界の現状や課題、求めている人材等について話す機会が少ないと感じている。来年度に関しては、医療機関・IT 業界への訪問数を増やし、現場との関係性を高めていく。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・学校の育成人材像と医療、WEB・IT 業界の求められる人物像にはまだ差があり、保護者への周知等も十分ではない点。

② 今後の改善方策

・保護者説明会による保護者への情報共有に加え、保護者への電話がけ（担任の挨拶含め）を実施。

② 特記事項

・学校目標、生徒指導においての心得を視覚化し、全教職員への浸透を図っている。

・入学後、生徒面談を実施し、気になる生徒の保護者への情報共有を実施し、信頼関係を構築している。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・業務効率化において SANKOGATE(学校から生徒への連絡ツール)や Googlechat などの活用はできているが、抜け漏れが発生する点やチェックをすることに教職員の時間が取られており効率化にはつながっていない。
- ・教職員間の連絡ツールが様々で統一ができていないため、時間を要してしまう点。

② 今後の改善方策

- ・教員間に関しては Teams を導入し、連絡や伝達を一括で行うことができるようにしていき、導入した情報システムツールの活用頻度を上げる。
- ・活用しているシステムが、どのように活かせるのかを定期的に職員会議等の場で検証していく。

③ 特記事項

- ・年3回の全教職員会議を実施し、運営方針の浸透・情報共有を行っている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・多様化する生徒に対してのコミュニケーション能力、問題解決力向上が課題。
- ・教育に関する統一のマニュアルは存在しているが各担任による指導の個人差が見られ、若手教職員の育成が課題。
- ・社会人育成の場としてコミュニケーション能力、礼儀、言葉遣いなど人間力を醸成させる指導の向上が必要。
- ・関連分野との連携強化が課題。
- ・ICTを活用した教育活動に関する知識、経験不足。

② 今後の改善方策

- ・目指す資格において全教職員でチームを編成し、指導状況の共有や指導の統一を図る。
- ・統一した教育の質を担保できるよう、職員会議や研修で認識を統一する。
- ・様々なデータから、学校内・個々における課題を改善させるため有効活用する。
- ・生徒、教職員の業界理解醸成のため、現場見学の機会を設定していく。
- ・メディア授業の活用における教職員のITリテラシー向上と取り組み事例を今後検討していく。

③ 特記事項

- ・人材育成として OJT 研修を定期的実施している。
- ・現場の話が授業で触れられることで、生徒の身になることは多くあると思うので、卒業生や業界関係者の講話を積極的に行っていきたい。
- ・おとなしい学生が現場で質問することができず、学校で質問を受けることもある。学生自身は「こんなことを聞いてよいのか」とストッパーを自らかけている可能性もある。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学を検討する前のアプローチ（生徒の変化に気付く）。
- ・生徒、保護者との信頼関係構築。
- ・卒業生の就職後の状況把握。

② 今後の改善方策

- ・各種生徒データの有効活用。
- ・退学率低減に向けては、担任を中心に生徒の変化にいち早く対応できるよう面談を実施。また、保護者との連携も併せて実施する。
- ・卒業生の就職先訪問と実態把握。
- ・教職員の業界研究を行い、生徒への情報提供を実施。
- ・企業様との関係性を深め、学校教育にご理解をいただき関係性を築き、卒業生情報はもちろん早期離職とならぬよう連携を強化していく。
- ・卒業生支援（リカレント教育）の場を提供し、教職員の学びの場としても設定していく。

③ 特記事項

- ・資格取得率向上に向けては、関連する教科担当が連携をとり、多くの教員からアプローチしている。また、検定ウィークを実施するなどの取組みを行っている。
- ・2023年度は2022年度に比べて退学率は学校全体でほぼ倍化した。1年生のホームルームの中で、生徒が将来像をつかみやすいように業界について話をする機会を設けた。また、担任がクラスに積極的に赴き、生徒の実情把握やタイムリーな面談を実施していた。
- ・集団生活になじめないということも増えてきたので、カウンセラーを設置し、相談しやすい環境を作っている。
- ・やりたいことがあって進路変更を訴え始める学生は少なく、面談を通じて生徒の話を聞き取る中で、生徒がやりたいことを把握できるケースが多い。
- ・最終的には本人及び保護者の判断にはなる。いずれにせよ一貫性のある退学申告は少ない。退学理由について二転三転することも多々ある。そのため、面談等を通じて、メリットやデメリットについて話をする中で判断させてゆく。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・ボランティア等の積極的な案内。
- ・卒業生の就職後の状況把握。
- ・エリア担当制で担任以外も実習や就職に関する支援体制はできているが、変化をする就職環境の情報収集を行い、日々の指導に浸透させていくこと。
- ・様々な奨学金が整備され学ぶ環境の担保ができたとしても、生徒自身の学ぶ意欲の継続させる方法。
- ・生徒を取り巻く環境（実習先・就職先・保護者・卒業生など）とのネットワーク作り。
- ・保護者の働き方が多様になり、就業時間内での連絡が取れず、教職員の時間外労働時間の増加。

② 今後の改善方策

- ・ボランティア活動団体との連携。
- ・卒業生の就職先訪問と実態把握。
- ・奨学金貸与者に対して今後のマネープランなど金銭に関する指導を継続的に行う。

③ 特記事項

- ・カウンセラーの設置、学生の希望により定期的に話をすることができる環境がある。
- ・経済的支援具体例
特待生学費免除制度、初期費用軽減・学費分割制度、日本学生支援機構奨学金制度
- ・千葉県専修学校各種学校協会主催「千葉県仕事の学び場」事業（専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン）への参画。
- ・2023 年度は早期に模擬面接等で現場の方のお話を聞くことができる機会を設けた。秋には、就職先未決定者について個別に就職先を一緒に探すなどのフォローを行った。
- ・2023 年度は全学生のうち 34%ほどの学生が奨学金を利用していた。2024 年度は現時点で全学生のうち 39%程度の学生が利用しており、5%の利用率の上昇が見られる。背景としては、支援対象の拡大などは

あるものの、総じて 30%台後半～40%弱程度の学生は、奨学金を利用することで学納金を確保しており、家計状況に大きな余裕があるとは言えない状況と思われる。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・生徒の職業イメージ醸成に向けた学外実習（現場体験等）、企業連携が課題である。
- ・災害を想定した避難訓練の実施。ならびに、安全管理の観点や災害の意識強化が課題である。
- ・地震が多い地域のため、備蓄品や避難グッズなどの準備が必要。

② 今後の改善方策

- ・業界講話や現場見学など、産学連携を強化していく。
- ・生徒、教職員に対する避難訓練を実施し、安全面への意識を高めていく。
- ・避難経路の確保については常日頃から点検を行い、ホームルームにて生徒へ避難訓練の意義や必要性を伝達する。
- ・各施設、設備の定期点検を実施する。

③ 特記事項

- ・防災マニュアルの定期的確認と周知。

(7)学生の入入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・学生募集活動は適切に行っているが、卒業後の就職先について具体的なイメージを伝えていく必要がある。
- ・18 歳人口の減少に伴い、医療、IT業界について興味をもってもらうような仕掛けが必要。

② 今後の改善方策

- ・首都圏地区の学生募集をサポートする首都圏広報室と情報を随時共有し、本校の強み、他校との差別化を明確に打ち出す。
- ・医療、IT業界に関わる仕事を知ってもらい、業界の魅力を感じてもらう工夫を実施。

③ 特記事項

- ・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守について継続して徹底していく必要がある。
- ・広報等でのSNSの発信内容には十分留意する必要がある。

② 今後の改善方策

- ・現時点で問題になるようなことは起きていないが、継続して啓蒙活動を行う必要がある。

③ 特記事項

- ・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・地域のことや、地域の課題を理解できていない。
- ・地域に愛される（必要とされる）学校として、ルールやマナーを守る。
- ・ボランティア活動の推進。

② 今後の改善方策

- ・地域の方との交流会の実施。
- ・ルール、マナーの厳守。
- ・生徒の教育効果にもつながり地域の方々にとっても有益な講座や教育訓練を企画していく。
- ・ボランティア団体との連携。

③ 特記事項

- ・学校として地域貢献はなかなか図れていない。業界関係団体等の力も借りながら行っていきたい。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

- ・受入れの際の手続き、授業運営、学校運営シミュレーションが必要。
- ・卒業後の就職先の確保。

② 今後の改善方策

- ・留学生が入学した際の、受入チェック体制(手続き方法、書類等の抜け漏れがないように)を準備しておく。
- ・不明な点をSANKO留学生サポートセンターに事前に確認しておく。

③ 特記事項

- ・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2023 年度は、コロナ禍が一定程度終息の気配を見せ、対面での指導等をより充実させることができ、それにより、就職状況など一定の成果を得ることができた。

入学前、在学中、卒業後のそれぞれの場面におけるリアリティ・ショックを最小化することが、学校が選ばれ、より良い学びの場所として学校が機能し、より個々人に適合した就職先を選択し長く業界で活躍することにつながると考えられる。そのためには、学校単独ではなく、業界団体、企業、卒業生等との連携が必要不可欠であり、それぞれの立場からの意見や見解を聞き取り、連携を深めてゆくことで、より充実した学びの機会提供及びより業界に寄与できる学校運営につなげていきたい。